

2024年10月19日

公益社団法人日本理学療法士協会
会長 齊藤 秀之 様

U30・U40 ネットワーク検討部会
部会長 野崎 展史

U30・U40 ネットワーク検討部会
報告書

若手会員とのネットワーク構築の必要性を議論する部会として U30・U40 ネットワーク検討部会（以下、本部会）は 2023 年度より議論を重ねて参りました。その検討結果を下記にまとめたので、報告いたします。

1. 若手会員とのネットワーク構築の必要性についての検討結果

「必要」との結論に至りました。その理由及び背景は以下の通りです。

本検討結果は、様々な年代を含む会員へのヒアリングや他法人の取組例を参考にしつつ、20代 30代の若手会員が中心となって取りまとめを行いました。議論の過程では年齢で線を引くネットワークの構築に関するデメリットや、若手会員と日本理学療法士協会（以下、本会）とのネットワーク構築を望む声が少なくないことも確認し、これら二つの側面に立った慎重な議論を重ねて参りました。

デメリット・メリットの両側面がある中、本部会の最終的なとりまとめにおいては、若手会員とのネットワークの構築を進め、若手会員らの期待に応じていく姿勢を行動とともに示していくことが、本会に新たな発想やエネルギーを吹き込み、組織体制の強化やロイヤルティの向上につながると考え、上記の結論に至りました。

主な意見は、以下の通りです。

- ・ 若手会員とのネットワークの構築を進めることはセクショナリズムを助長しないか
- ・ たとえ 20代 30代の会員が集まり議論をしたとしても、その人たちの感覚が必ずしも若手会員の全体を捉えているわけではない。そういった前提に立って常に考える必要があるが、若手の部会のとりまとめというラベルがつくことで、ミスリードを招くリスクを考える必要は無いのか。
- ・ 先輩方に比べ、経験不足や力不足の点は必ずある。先輩方のサポートがあって、初めて前に進むということも多々ある。そうであれば、最初から年齢で線を引く必要はないのではないか
- ・ 会員構成の 75%以上を占めている 20代・30代の若手会員の声に、本会は十分に耳を傾けられていないのではないのか。
- ・ 若手会員が本会活動のど真ん中に飛び込むことが許容され、共にありたい姿を議論できる場や執行部との接点があってほしい。

- ・ 職能団体である以上、社会に対する貢献・パフォーマンスの成果を提示できているかにこだわりを持ち続けたい。将来を担っていく優秀な若手リーダーのつながりも作っていく必要があるのではいか。
- ・ 若手会員と本会との接点をもっと多様に、もっと身近なものになってほしい。

なお、本部会では部会員の半数を公募による採用とし、想いのある会員が自らの意志で、当事者の一員として本会活動に参加できる環境作りを試験的に取り組みました。その結果、「様々なキャリアを歩む人とつながりたい」、「将来の理学療法士を考える場にぜひ参加したい」、「面白そう、やってみたくと率直に思った」、といった前向きな声とともに、公募枠の6名を大きく超える93名の全国の若手会員から応募申請が寄せられ、説明会のみ参加者も含めれば200名弱の若手会員から反応が得られました。若手会員を巻き込んだ未来志向的な本会事業に対し、このようなポジティブな反応を得られたことは、部会活動を通して得られた重要な知見のひとつであり、本報告書を取りまとめる際の参考となりました。

2. 事業提案

若手会員とのネットワーク構築の必要という検討結果と併せて、そのネットワーク構築事業の検討も行い、下記の事業を提案いたします。

- 事業名** : U40 Future Network 事業 (仮)
- 事業目的** : ① 全国の若手理学療法士 (会員、非会員、学生含む) が緩やかにつながれ、本会事業との気軽な接点ともなる場の創出
- ② 未来を担う若手リーダーらの顔の見えるコミュニティの創出及びリーダーの育成
- ③ 若手会員が本会活動の中心に飛び込むことができ、共にありたい姿やあるべき姿を議論できる場の創出
- 期待される成果** : 多様な入会意義の創出の一助となり、本会の「中長期計画の注力する領域」として示されている「職能団体としてのロイヤルティ (Loyalty) 向上」や「組織率の安定 (新規国家試験合格者入会率の増加や休会率および退会率の抑制や減少等)」に寄与することが期待される。また、これらのことが組織の継続的な発展につながると期待される。
- 事業概要案** : 以下の3つの事業を3年計画で展開する。

U40 Future Network Café (事業目的 ①)

- ・ 国際事業課実施のワールドカフェのような形式で、原則、オンラインでの定期開催とする
- ・ 公募によるテーマ募集・講師推薦の他、各回の運営参加の希望を募り、会員参加型・会員提案型の事業とする
- ・ 内容に制限を設けず、出産、育児、進学、転職など、会員の様々なライフイベントやキャリアデザイン等に関連したテーマも可とする

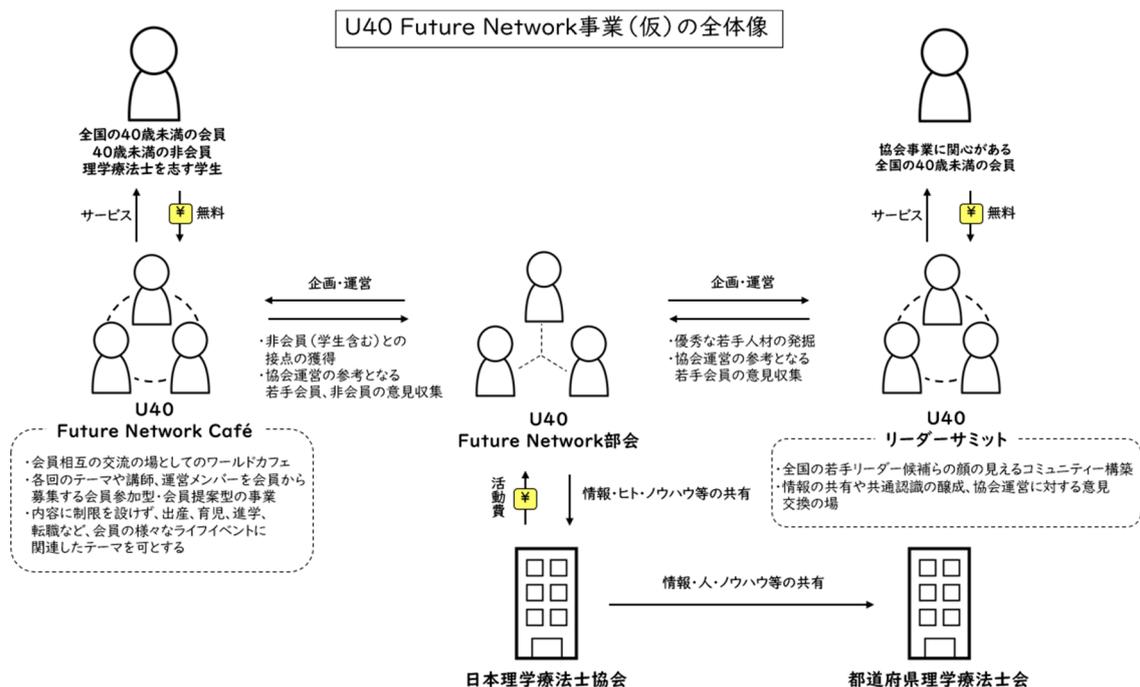
- ・会員非会員を問わず参加でき、学生や他職種も参加可能とする

U40 リーダーサミット (事業目的 ②、③)

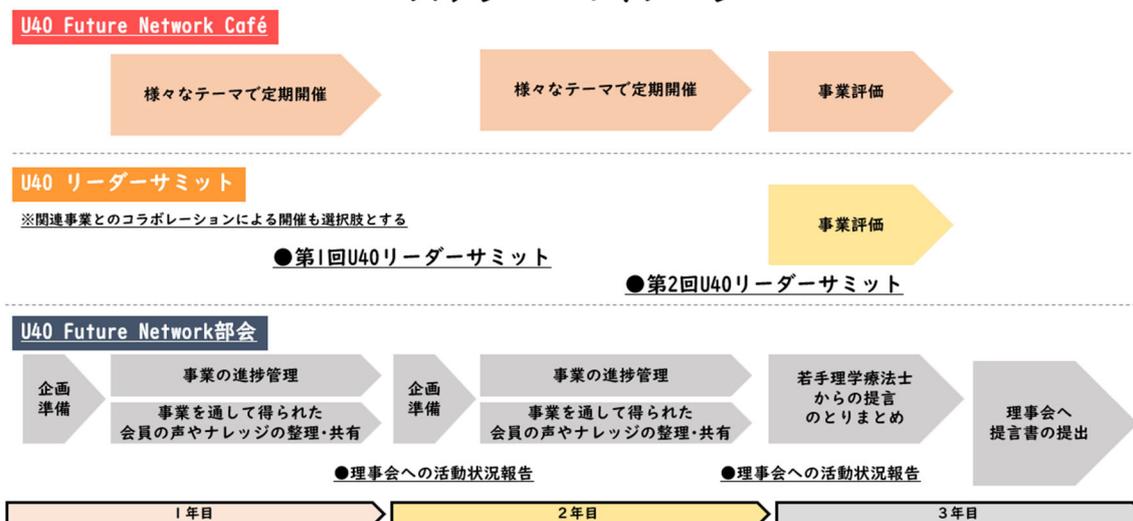
- ・原則、オンライン開催とする
- ・日本理学療法学会研修大会などの関連事業と連携した開催が可能な場合は、対面開催も検討する
- ・本会事業に関心がある全国の若手リーダーらを参加者とする
- ・顔の見えるコミュニティーを構築するとともに、情報の共有や共通認識の醸成、若手理学療法士からの提言等に関する意見交換等を実施する

U40 Future Network 部会 (事業目的 ③)

- ・「U40 Future Network Café」と「U40 リーダーサミット」の企画運営、進捗管理を行う
- ・事業を通して得られた会員の声や知見を、理事会や組織強化対策本部組織強化対策推進部会、都道府県理学療法士会（以下、士会）、代議員等に共有し、関連事業との連携を図る
- ・事業を通して若手会員等の様々な意見に触れ、その内容を提言に取りまとめ、理事会に報告する
- ・「会員→士会→本会」というつながり方に加え「会員→本会→士会」など多様なつながり方があることを踏まえ、事業等を通して出会う本会・士会活動に興味がある若手会員らを、本人の希望に応じて本会事業や都道府県士会につなぐ役割を担う



U40 Future Network事業（仮） スケジュールイメージ



3. おわりに

「若手会員が中心となって思い切った議論を重ね、その結果を理事会に提案してほしい。」と本会会長から頂いたこの言葉とともに、本部会が発足しました。部会員一同は、このような機会を与えてくださり、さらには私たちが活動しやすい環境になるようにと各方面で様々な調整をしてくださる諸先輩方に心から感謝し、責務を全うすることに努めてまいりました。また、士会の皆様や World Physiotherapy Future Network のキーコンタクトの皆様、経済産業省や総務省、デジタル庁といった各省庁の横断型プロジェクトとして活動する Japan + D の皆様など、多様な領域からの直接的・間接的な支援をいただきながら本報告書を取りまとめることができました。ひとかたならぬご支援に改めて深謝いたします。

本報告書は、現状を否定するものではありません。これまでににおいても、会員の様々な実情に寄り添った本会活動を推し進めていただいていることに感謝しつつ、さらにより良い未来へとつながることを願って提案するものです。

本部会の行動をもって示せる部分が1つでもあると良いと思い、部会員を公募し、部会員構成の検討においても年齢や性別、働く領域、専門性のバランスを考慮した人選を行いました。このようなバランスを考慮した部会員構成の考え方が、他の事業でも広まることを願っています。また、本事業は2年という期限での検討事業でしたが、その中で公益法人の性質を鑑みてじっくり検討を重ねながら進めるべき事業もある一方、検討・実装（・テスト）の一連の流れを短期間でかつ小さな予算で、ある程度の自由度を持った中で試行錯誤しながら展開していける事業の在り方も今後検討していく必要性を感じた次第です。本報告書の内容が本会の今後の組織運営の検討の一助になれば幸いです。

以上

【部会員】

部会長：

野崎 展史 （日本理学療法士協会理事）

部会員：

江草 典政 （島根県理学療法士会副会長/島根大学医学部附属病院）

近藤 沙季 （東京西徳洲会病院）

鈴木 博人 （宮城県理学療法士協理事/東北文化学園大学）

藤本 修平 （静岡社会健康医学大学院大学准教授）

山 健斗 （ARCE 取締役）

赤澤 真衣 （聡明会児玉病院）

川崎 詩歩未 （東京工業大学工学院）

杉浦 怜奈 （大誠会 内田病院）

森 優香 （大阪府立病院機構）

河村 由実子 （リハノワ）

私市 直人 （新緑会 鈴木慶やすらぎクリニック）

【部会】

第1回部会：2023年10月26日

第2回部会：2023年11月29日

第3回部会：2023年12月3日

第4回部会：2024年6月10日

第5回部会：2024年7月9日

第6回部会：2024年9月11日